

第55回 川崎市幼児教育研修大会

第5分科会 中堅教諭研修会

月 日 平成27年1月21日(水)

場 所 川崎市中原市民館

講 師 佐藤 康富先生(鎌倉女子大学教授)

テーマ:「中堅の保育力」

～キャリアアップを目指して～

俯瞰図番号 E2-Ⅱ

○自己紹介

- ・じゃんけんをして、勝った人がインタビューをする。

○保育仲間との語り合い

- ・喜び・ゆめ
- ・頑張っていること

○中堅として

- ・自分の意見が通るようになった。
- ・何に対しても見通しができるようになった。

◎保育者としてのライフステージ

○Katzの保育者の成長モデル

サバイバル期

↓

実践の確立期

↓

挑戦・協働期

◎保育で大切なこと、考えるべきこと

○ニュージーランドの保育施設より...

- ・保育所 0～5才
 - ・幼稚園 3～5才
- 5歳になった誕生日から学校に通う
- ・木や葉、マツボックリなどが園庭にあり、自然を大切にしている。
 - ・作品を展示する際、写真を使って展示し、子どもの興味、関心を広げている。

※全て真似をするのではなく、いろいろな方法を知り、刺激を受けて、更なるステップアップにつなげる。

○サムのラーニング・ストーリーズ

○ラーニング・ストーリーとは

- ・子どものアカデミックスキルを測る○×式のチェックリストではない
- ・オルタナティブな子どもの学びの評価方法

↓

ナラティブな形式で子ども1人1人の成長の記録

- ・写真や作品を飾り、月ごとの成長を記録している。

○ラーニング・ストーリーは学びの評価
学びの構え (Disposition)

↓

- ・興味をもっていること
- ・夢中になっていること
- ・チャレンジしていること
- ・自分を表現すること
- ・他者の役に立つ、貢献をすること

●積極的に学びへ向かう姿勢

※できたできないが問題なのではなく、取り組もうとした姿勢を評価している。

○スキーム (SCHEMA)

子どもが繰り返すパターン

- ①連結する ②囲う ③移動する
- ④変形する ⑤軌跡を追う ⑥並べる

↓

集中・没頭

フロー (Flow)

粘り強さ

↓

学びの芽生え探究へ

※頑張っていることに目を向けることを大切にする。

○保育の質

- ・構造の質
- ・成果の質
- ・過程の質

第5分科会

○水族館活動の事例 DVD

- ・水族館を見にいった後に、園に戻ってきて段ボールや紙などで海の世界をつくるようす。くらげをつくりたいが、つくり方で悩んでいる。(DVDを見て、子どもたちはなぜこのようにするのか。先生は何を育てようとしているのかを話し合う)

※答えを伝えてしまうことは簡単だけれど、遠回しに伝えることで、大人と違う発想が生まれ、子どもたちのこだわりがでる。

※自分も考え、まわりも考えることで協力する力が身につく。

※頑張る力を育てていく。

- ・子どもが考えるプロセス

子どものアイディア

↓

他に聞きに行く・調査

↓

いろいろな方法を試す

↓

自分たちで決定する・納得

○幼稚園教育要領にみる幼稚園教育の意義

- ・第3章「指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」

2008年

- ・「(9) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以後の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにする」

→①人間形成の基礎

②幼児期の特性

③主体的な態度

○写真を読む

- ・小西貴士「子どもは子どもを生きています」(フレーベル館から)

○写真を見て、どのような状況で、子どもは何を考えているのか2～3人で話し合い
※表情をよく読み取り、その先を考えることが大切。

○人と話すことで、自分だけではわからない新たな気づきがある。

→ジョハリの窓

- ・自分も他人も知っている自分。

→ひらかれた窓

- ・自分は知っている。他人は知らない自分。

→隠された窓→(自己開示)

- ・自分も他人も知らない自分。

→気づかない窓

- ・自分は知らない。他人は知っている自分。

→未知の窓

○みんなで話そう

◎中堅教諭の役割・わかち合い

○保育実践の充実

○園での中心的役割

○チャレンジ、協働

○「自分」の解決・相談したい課題

- ・5、6人のグループで話し合い

- ・答える側は、付箋に意見を書いて渡す。

○分析の視点

・子ども

・方法

・遊び活動の問題

・評価の仕方

↓

- ・話し合うことによって

①共感することができる。

→解決できるわけではないかもしれないが、同じ悩みを抱えている存在に気づくことができる。

②付箋を使うことで見返すことができる。

→形に残ることで、次につながるヒントがうまれる。

③悩みを言うこと＝弱みを見せること

→弱みを見せることができるリーダーこそが
人から頼られる存在になる。

→同じ悩みがある、困っていると思うことで
親近感をもって関わるができる。

※全部頑張りすぎなくてよい。心を開き続け
るリーダーでいること。

※話し合うことで自分の可能性を広げていく
ことが大切である。

○質の高い保育を創るのは先生たちの協同で
できる。

○質の高い園とは1人のカリスマ教師が
いるのではなく、園全体がチームワークとして
力を出す。

※同僚とチャレンジすること

※保育を楽しむことが大切

○まとめ

○為末 大

・遊びのなかで僕は、自分が面白いだけで
なく、「みんなが面白がることって何だ
ろう」ということを自分自身のモチベー
ションにしていた。人が夢中になるス
イッチを探すことが、仕事につながった
らいいなと思う。

○「子どものよさ、頑張っている点に目を向
け、子どものやる気スイッチを押すこと !!」
を大切にしていく。